

天文学的側面から見る絵画の正確性 ゴッホ作「糸杉の見える道」

川上 真依、横山 菜々（高2）【大阪府立北野高等学校】

要旨

ゴッホ作である「糸杉の見える道」における天体の正確性について検証した。ステラナビゲーター、Googleマップなどを用いて、絵が描かれた場所と日付、作品中の特徴的な天体の名前を特定し、導き出した結果が史実と合致するものとなったため、作品中の天体描写の正確性が証明されたといえる。

1. 研究の動機と目的

天文学が現代ほど発展していなかった時代に、どこまで正確に天体の方角位置関係を描いていたのかということに興味を持った。ルネサンス以降、写実主義の風潮が広まり天体の描写が認められると、画家は星空の構図を忠実に描くと仮定し、絵画における天体描写の写実性を追求していく。



図1 糸杉の見える道
Wikipediaより

2.1 どこで描かれたのか

これは1890年5月に発表されたゴッホの最期の作品であり、フランス南部、サンレミドプロヴァンスの精神病院で療養中に描かれたものである。どこで描かれたのか調べるため、Googleマップを用いて病院周辺の道を調べたところ、ゴッホがこの絵を描いたことを示す看板を発見したことから、描かれた場所はマリーギャスケ通りであることが分かった。

2.2 左上の星は何であるか

先ほどの看板が正しいものとみなし、地図上の方角によって天体の位置を調べたところ、糸杉が南西の方角に見えることが分かった。絵の構図から、左上の星も南西の方角に見えると考えた場合、この星は金星であると考えられる。夜に見られる金星は別名「宵の明星」と言われ、夜空で一際輝く星であるため、見つけやすく、絵に描かれやすいことも理由として考えられる。

2.3 いつ描かれたのか

インターネット上に、絵は1890年4月20日に描かれたという説があった。この日は水星と金星が天文合によりシリウス座に匹敵する輝きをもつためである。この情報について、ステラナビゲーター（緯度・経度、日付を入力するとその地、その日の空を見られる機能）を利用して検証した。4月20日の星空を調べたところ、金星の位置が西に極端に寄っていることから、この日付は不適切であると判明した。その後、実際にはいつ描かれたのかを調べるために、1890年4月から一か月ごとに遡って三日月の日を検証した。日付を推測する時の条件は、①月が三日月である、②金星が見える、③月が金星の右側に見える、④日没後絵画と月の傾きが似ている、の4つである。計16パターンを検証の結果、1888年12月が絵画と最も近いことが分かった。



図2 1888年12月5日の空
ステラナビゲーターより

この日が最も絵画の構図と近いということを裏付けるために、近い月である11月と、12月5日前後の日を調べた。検証結果は、

- ・11月は月が金星の左側にあること
- ・12月4日は月が細すぎて絵画と合わないこと
- ・12月6日は月が金星の左側にあること

が分かった。よって、1888年12月5日が星空の描かれた日付であると考えられる。

3. 結論、考察

1888年12月5日は作品発表のおよそ二年前であることから、

- ①彼は天才的な記憶力により天体の位置、輝きを覚えていたのではないかとということ
 - ②病院で療養している間、何度も描きなおしていたのではないかとということ
- の二点が考えられる。

参考文献・引用資料

<http://yokochu.seesaa.net/article/144164419.html>
<https://ja.wikipedia.org/wiki/糸杉と星の見える道>
ステラナビゲーター、Google map(シミュレーター)